

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校は開校以来、約5100名もの卒業生を数え、県内外の優良企業へ優秀な人材を輩出してきた。コンピュータをベースとする、情報処理技術者、システムエンジニア、プログラマー、CAD等各分野のスペシャリストを養成し、その方面への就職を通して、企業との厚い信頼関係を築いてきた。

その中でも「情報処理学科」は、開校時より資格取得や実践教育に力を注いできたが、その実績に加え、これまで以上に企業等と密接に連携したカリキュラム編成による教育を実行することで、より実践力のある学生を社会へと送り出すことが可能となる。

そこで本校ではIT業界における情報サービス企業・公益団体との連携を図り、企業等のニーズを十分に反映した実践的最新の知識・技術習得を目的とするカリキュラム作成のために「教育課程編成委員会」を設置し、その委員会における各委員の意見を十分に生かしながら、産業界の動向を踏まえカリキュラムを随時改善していく。

さらに、企業ニーズ把握のため県内外の就職先企業にも、随時、インタビューし、それを今後のカリキュラム編成の参考にしている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長直属の委員会と位置付け、職業実践専門課程としてのカリキュラム編成、及び改善を行っていきに当たり、企業等からの意見を随時反映し、その内容を検討する機関とする。

教育課程編成委員会では、以下の事項を審議する。

1)教育課程の実施状況に関する報告と問題点や疑問点

2)問題点に関する解決策の方向性

3)産業界の動向を踏まえた新たな取り組み提案

委員会の審議結果を基に、学科長・教務部長が中心となってカリキュラムの検討・見直しを行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
凍田和美	ハイパーネットワーク社会研究所 理事	令和6年4月1日 ~令和8年3月31日(2年)	①
大城英裕	大分大学理工学部 助教	令和6年4月1日 ~令和8年3月31日(2年)	②
後藤 雅明	株式会社ザイナス	令和6年4月1日 ~令和8年3月31日(2年)	③
三浦 勉	株式会社アーネット 部長	令和6年4月1日 ~令和8年3月31日(2年)	③
永樂仁八	IVY大分高度コンピュータ専門学校 学校長		—
中島千春	IVY大分高度コンピュータ専門学校 教務部長		—
本田文喜	IVY大分高度コンピュータ専門学校 総務部長		—
森崎真由美	IVY大分高度コンピュータ専門学校 学科長		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年11月14日 16:00~17:30

第2回 令和6年3月11日 16:00~17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会では令和5年度の授業の実施状況、学生からの聞き取り調査の結果等の報告を行い、委員の意見をもとに新年度用カリキュラム案を提示した。委員からの反対意見はなかった。また、外部講師のグループ開発授業に対する質問はどのようにしているのかという質問や、学生の制作したもののレベルが高いが先生達のサポートがどれくらいあるのか等の質問が出された。

回答は以下のとおり。

- ・外部講師の授業より前に学ぶ、同様のグループ開発授業で質問の内容・仕方等を事前に指導をしていく必要性を感じている
- ・学生のタイプによりサポート量が変わるが、先生達が考えて色々なパターンを実施していくのではなく、AIを使ったシステム等を使って負担を減らしていく予定

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①授業で学んだIT知識・技術を実務的な実習を通して、理解を深める。
 - ②実体験を通して、社会の中での人間関係の重要性を理解する。
 - ③最新技術の動向を多くの講演会などに参加して学ぶ。
 - ④企業の方による直接的な実習指導で、より実務的な仕事のやり方、最新技術での開発方法を学ぶ。
- 上記4項目を実現するため、企業と連携して情報処理技術者としての資質を育成することを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実務経験豊富なシステムエンジニアを講師としてWebアプリ開発技術を中心に実習を通して学ぶ。実施手順については、グループ学習を中心として、スケジュールリングや目標設定を行う(アクティブラーニングの手法を取り入れる)。このとき、適切になるように指導する。また、最後にグループ単位で発表を行う。発表の仕方や取り組みは担当教員が行い、「プレゼンテーションの実施内容」・「授業に対する姿勢」・「グループに対する貢献度」を、企業の講師が評価する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
Webアプリ開発	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	JAVAサーブレット、JSPにてWebアプリケーション関連のプログラミング技術を実践学習する。	LAUNCH CRAFT 合同会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校は、研修規定に定められているように、教員のための研修会を研修係にて企画し実行する。また、各教員は、自分の担当科目に関わらず、現在の業界最新動向に注目し、業界団体や学術機関の開催する講演会や各種研修会・セミナー等への参加を積極的に行う。また、学生指導についても、外部研修機関を通して定期的に研修を実施する。授業方法・シラバスについても、学生アンケートを実施し、適宜、見直しを実施する。これらについては、目標管理における自己啓発目標として各自が年度ごとに設定し、成果の評価を行っている。

研修は職場における日常業務の実践過程において、本校の基本方針に基づき、専門分野の知識習得だけでなく、学生への指導力向上にかかわる研修を計画的に実施する。

(2) 研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: ファシリテータ研修	連携企業等: ハイパーネットワーク社会研究所	対象: IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員
期間: 2023/7/10		
内容: ファシリテータとは何か。どのような役割を求められているのか。		
研修名: figmaを使った簡易Webページの作成について	連携企業等: トリアナ	対象: IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員
期間: 2023/8/29		
内容: Webページの制作方法を学ぶ		
研修名: 2023年度AIセミナー	連携企業等: サーティファイ情報処理能力認定委員会	対象: IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員
期間: 2023/9/29		
内容: 生成AIとこれからの教育現場		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: ChatGPTとリスキリングー生成AI時代の人材育成を考える	連携企業等: Udemy Business	対象: IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員
期間: 2023/6/22		
内容: 1. ChatGPTなど生成AIのいま 2. 生成AI時代のリスキリングを考える 3. AI関連の学びを推進するために		
研修名: 2024年度入学生に求められる学生指導とは	連携企業等: 株式会社進研アド	対象: IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員
期間: 2023/7/25		
内容: 入学者数減少と学力低下が専門学校教育に及ぼす影響		
研修名: 教員工数を削減と学生のPG学習効果	連携企業等: 株式会社ギブリー	対象: IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員
期間: 2023/7/13		
内容: e-ラーニングツール導入による効果(盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校の例)		
(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: AI時代のはたらき方とセキュリティ対策	連携企業等: リコージャパン株式会社	対象: IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員
期間: 2024/6/13		
内容: マイクロソフトのCopilotによる実演		
研修名: DX化研修会	連携企業等: 株式会社TNC	対象: IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員
期間: 2023/12/22・26		
内容: 学内業務のDX化に関する研修		
研修名: AIで「働く」はどう変わるのか? Microsoft365で実現するセキュアで素敵な働き方	連携企業等: 株式会社リコージャパン	対象: IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員
期間: 2024/2/8		
内容: Copilotを利用したMicrosoft365による生産性の高い働き方や、高いセキュリティの実現について、デモンストラレーションを交えて講演。		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 校内職員研修①	連携企業等: 別府大学 教授	対象: IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員
期間: 2024/8/28		
内容: 学専門学校におけるこれからのキャリア教育について		
研修名: 校内職員研修②	連携企業等: 大分大学 教授	対象: IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員
期間: 2024/12/20		
内容: 学生のやる気を引き出し、職員のモチベーションをアップさせるには		
研修名: IVY特別記念講演会	連携企業等: 未定	対象: IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員
期間: 2025/2/2		
内容: 未定		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、学校関係者として卒業生、その他、企業および学識経験者から構成される委員が参画した学校関係者評価委員会を設置して、自己評価をもとに、教育理念と目的に沿った人材育成がなされ、かつ、健全な学校運営(学生募集～教育～就職)が行われているか評価し、評価結果を教育活動その他の学校運営の改善等にかし、学校運営の客観性と透明性を高めることを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念、目的、育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- (1)教育理念・目標について…安心・安全な社会を構築するための教育(技術者モラル・著作権・セキュリティなど)にさらに力を入れたものを目指してほしい。→ 講義の中で説明するだけでなく、朝礼時に関連する出来事があった際に話をするなど学生が興味・関心を持ち意識をするように指導していく。
- (2)学校運営について…業界や地域社会に対する貴学の存在価値を高めるさらなる努力をしてほしい。→ 企業との連携や、学外の行事・イベント等に参加をする機会を増やすことで、より存在価値を高めていきたい。
- (3)教育活動について…実践的で専門的な職業教育は、体系付けたカリキュラムが必須と感じる。また、コミュニケーション能力や課題解決能力の育成も必要だと思う。→ 職業実践専門課程として企業の方と協力しカリキュラムのブラッシュアップを行う。コミュニケーション能力はあいさつ運動等をきっかけに伸ばしていきたい。
- (4)学修成果について…変化の激しい時代に対応するためにも、キャリア形成に関する教育も今後は必要になってくると思われる。→ キャリア教育の授業だけでなく、各講義において学んでいる内容が将来どのように仕事に繋がっていくかを説明し、学生がキャリア形成について考える材料を持たせていく。
- (5)学生支援について…同年代はいくつになっても同年代で、横の繋がりの強化が大分を支える力を生み出すことになると思いますので、そのあたりのイベントを考えて頂けると嬉しい。→ 学科・学年を超えて交流できるイベントを学生主導で企画し、実施していく。
- (6)教育環境について…学外、地域社会での学生の学びにさらに力を入れてほしい。→ イベントへのボランティア参加やセミナーへの参加への呼びかけを積極的に行っていく。
- (7)学生の受け入れ募集について…オープンキャンパスや入学体験などでこのような学生生活や学習ができますよ、だけでなく、その先に自分がどのような社会人となり活躍できるかの道筋が思い描けるような体験活動をさせてはいかがだろうか。→ 通常のオープンキャンパスに加え、企業の方や卒業生を招いた特別行事も開催し、卒業後を想像できるようなイベントを実施していく。
- (8)財務について…指摘事項なし。
- (9)法令遵守について…学生において法令遵守することの大切さを生活指導の場でもよく説明を実施してほしい。社会に出たときに個人プライバシーをはじめとする情報を扱う大切さが身についたまま企業に来てくれるのは嬉しいことだと思う。→ 講義や普段の学生生活の中でルールを守る大切さや情報を扱う大事さについて指導していく。
- (10)社会貢献・地域貢献について…「出前授業」は地域に根差した専門学校ならではの取組みである。さらに受け入れ校が増えることを願う。→ 通常の出前授業だけでなく、e-sports等を通じて地域活性への協力も行っていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
凍田 和美	公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 理事	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
大城 英裕	国立大学法人 大分大学理工学部 助教	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	学術機関 有識者委 員
後藤 雅明	株式会社ザイナス マネージャー	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
三浦 勉	株式会社アーネット 取締役事業部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
新名 康行	アンプリファイ	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
宮澤 英夫		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.ivy.ac.jp/?page_id=1194

公表時期: 令和6年6月3日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校に対して連携を行う企業、関係者に対し、本校に対する深い理解を得てもらうことで連携を円滑にすることができ、それにより連携を進め、活動の充実や教育内容の向上を図る必要がある。

そのため、当校は連携する企業に対し、教育目標や計画などの方針をはじめ、教育対象となる生徒・カリキュラム、教育環境や経営情報などの情報を公開し、もって企業との相互理解を深める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要(校長名・所在地・連絡先・沿革)、学校の教育理念・特色
(2) 各学科等の教育	定員数、カリキュラム、卒業・進級要件、成績評価の基準、資格取得実績 主な就職先・就職率
(3) 教職員	教職員数、組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	演習・実習への企業との連携方針、就職支援等への取組支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育環境、学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援体制、スクールカウンセラー
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金
(8) 学校の財務	資金収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.ivy.ac.jp/?page_id=1194

公表時期: 令和6年9月30日